

小所低所から 森まゆみ



[2]

上田市から壹方方面に車を走らせ、鳥居峠を越えて30分ほど行くと群馬県長野原町。そこを流れる吾妻川に巨大なハツ場ダム計画が浮上してもう60年になる。

1947年、カスリーン台風は関東平野で1000人以上の死者を出した。それで利根川下流の治水と下流都県の利水のために上流にいくつものダムが計画された。しかし草津日根山系の強酸性水の流れる吾妻川にダムを造れるかは技術的に疑問だった。

品木ダムができるのによつて中和が可能とされ、1960年に議決した。住民は建設反対の運動を繰り広げたが、86年、計画は再浮上。住民は、移転代替地をダム湖より上の山腹部に建設する「現地すり上がり方式」を条件にダムを認めた。

4集落のうち、林、横壁は半水没、川原湯、川原畑は全水没となる。

長野原町のいわゆる北群沢大字村に住んでいた詩人の岸田裕子さんは、自然の破壊に心を痛めていた。木々は水に沈む。「なぜ造るのですか」「行けばくん」「ジオシオのパンやさんな」などの絵本でも知られる裕子さんは、自然の破壊に心を痛めていた。木々は水に沈む。

そして私は長らくこの問題に取り組んできた。「ハツ場あしたの会」の方たちと出会い、何度も現地に足を運び、私は今までハツ場ダムは「不要ないろいろ非常に危険なダム」であることを確信している。

治水ではカスリーン台風時

利根川の洪水は止められなかつた。その後、植林によって山の保水力は増し、戦後すぐのようは、90年代に節水と漏水防止、工場の移転がすすみ、下流都市部も水に困っていない。

さらにダム付帯工事による自然の無理な改変のため、落石や土砂崩れが後を絶たない。切り土と盛り土で造った住民の暮らしは代替地も崩落などが起きなければいけないが、専門家は心配している。その代替地も地価が高いため、川原湯地区で201戸あつたうち、代替地に移転を希望するのは現在、36戸に減ってしまった。坪17万円もするので

は、前橋や渋川の宅地が買える。1兆円を超えるのではないか、建設費は2004年に4600億円、今では保守管理を含めて2100億円ではじまつたたなければならない。

そんなことで私たちの国税、どこのか都民は都民税の一部も、このダムに注ぎ込まれている。2100億円ではじまつた建設費は2004年に4600億円、今では保守管理を含めて1兆円を超えるのではないか、

だから何度、ハツ場ダムを訪れたことだろう。お正月の湯かけまつり、紅葉の美しい吾妻渓谷、そしてこの5月にまた川湯温泉景に行って驚いた。湖面2号橋が開通し、道の駅ハツ場ができ、代替地の住宅は増え、付け替え鉄道の駅のホームまで進んでいた。川原湯の露天風呂、聖天様の湯も6月いっぱい閉じるそうだ。

それから何度、ハツ場ダムを訪れたことだろう。お正月の湯かけまつり、紅葉の美しい吾妻渓谷、そしてこの5月にまた川湯温泉景に行って驚いた。湖面2号橋が開通し、道の駅ハツ場ができ、代替地の住宅は増え、付け替え鉄道の駅のホームまで進んでいた。川原湯の露天風呂、聖天様の湯も6月いっぱい閉じるそうだ。

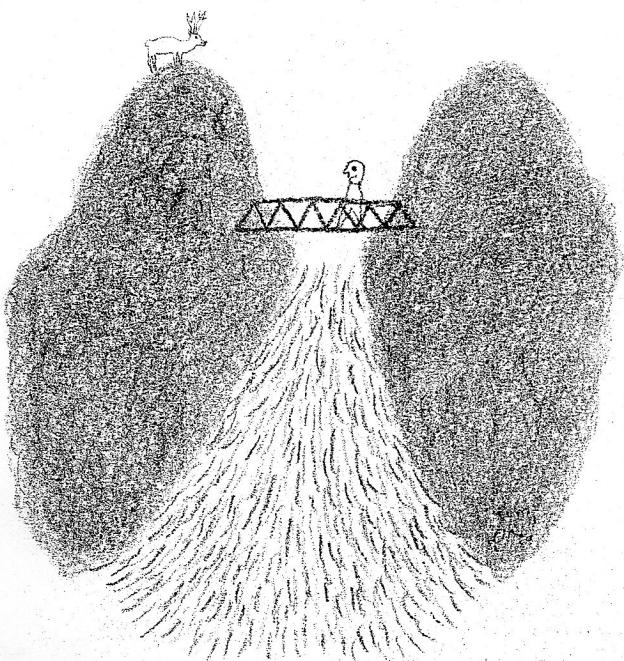
着々といふ感じ、もう既成実化している。「負け犬の遠吠え」であつても、私はこのダムの危険性を語らないではない。そもそも国道と主要鉄道が通つてない。それに、まだダム本体はできていない。こんな美しい地域をダムに沈めるなんて、そもそも国道と主要鉄道が通つてないところにダムを計画することはどうらうことなんだろう。

長野県の人たちにもぜひハツ場ダム予定地を見でほしい。新緑の鳥居峠を抜けて川原湯温泉でひと風呂はいかがですか？

水に沈む美しい自然

「山の水」太田朋

私は四半世紀前に三遊亭由朝を追つて旅をするひながら、この吾妻渓谷を通つた。「このへん、もうすぐダムの底になっちゃうんだつて。記念に温泉に入つていいのか」というくらい無知で能天氣であった。ずっとあとになつて文化庁の委員を務めた私は、ここに戦前、名勝に指定された吾妻渓谷と天然記念物川原邊石脈という二つの文化財があることを知つた。



不要なダム計画

利根川の洪水は止められなかつた。その後、植林によつて山の保水力は増し、戦後すぐのようは、90年代に節水と漏水防止、工場の移転がすすみ、下流都市部も水に困っていない。

私は河川工学の権威、高橋裕東京大学名誉教授に「先生、本当にハツ場ダムはいるのですか」ときいたことがある。苦渋の表情でほんとうを考えた先生は、「いらないでしようね」と一言。

私は河川工学の権威、高橋裕東京大学名誉教授に「先生、本当にハツ場ダムはいるのですか」ときいたことがある。苦渋の表情でほんとうを考えた先生は、「いらないでしようね」と一言。私は河川工学の権威、高橋裕東京大学名誉教授に「先生、本当にハツ場ダムはいるのですか」ときいたことがある。苦渋の表情でほんとうを考えた先生は、「いらないでしようね」と一言。私は河川工学の権威、高橋裕東京大学名誉教授に「先生、本当にハツ場ダムはいるのですか」ときいたことがある。苦渋の表情でほんとうを考えた先生は、「いらないでしようね」と一言。